

4. 木簡の水洗と保存処理事業

奈良文化財研究所が保管する木簡は20数万点におよび、全国の出土総数の約7割を占めています。とくに平城宮跡の発掘調査では、木簡を含む木屑層を発見(写真1)すると、発掘現場で木簡を選び出すことが困難なため、木屑を全てコンテナに入れて整理室に持ち帰り(写真2)、室内で水洗・選別作業(写真3~5)を行います。木屑には薄い木簡の削り屑が含まれるため、洗浄には細心の注意が必要で、膨大な手間と時間がかかります。発見した木簡の整理・解読作業が済むと、木簡を後世に伝えるために保存処理(写真6・7)をする必要がありますが、木簡の出土に保存処理が追いつかないのが実状です。こうした地道な作業の体制の強化に向けて、ぜひみなさまのご協力をお願いします。



1 木簡を含む木屑の分厚い堆積
(平城宮東方官衙の大土坑)



2 発掘現場から取り上げた木屑層のコンテナ



3 木屑をていねいに水洗して木簡を探し出す



4 取り上げた木簡の水洗作業



5 水洗作業で見つかった
木簡の削り屑



6 木簡を真空凍結乾燥機に入れる



7 保存処理前後の木簡